

今月のHOTニュース

住宅の防犯ポイント



住宅の防犯は、家族と財産を守るために大切なことです。今回は、住宅侵入窃盗への対策について抜粋しますので、住宅の防犯対策にお役立ててはいかがでしょうか。

玄関は主錠と補助錠のワンドアツーロックにしている

ワンドアツーロック・・・1つのドアに2個以上の錠を取り付けること

主錠のほかに補助錠が付いていれば、侵入しようとしても時間がかかります。

侵入までに5分以上かかると、約7割の泥棒はあきらめるといデータがあります。

* (財)都市防犯センターデータより錠は「防犯性能の高い建物部品」をおすすめします。

◆侵入をあきらめる時間

2分超過 5分以内	51.4%
5分超過 10分以内	22.9%
2分以内	17.1%
10分超過	8.6%

ドアの内側にサムターンカバーを取り付けている

サムターンカバーとは、室内側にある錠のつまみが外部から解錠されることを防ぐ器具。金属棒を差し込むなどして解錠する、サムターン回しによる侵入を防ぐ効果があります。ドアの内側には、サムターンカバーを取り付けましょう。

窓ガラスは破壊に強い防犯ガラスにしている、または防犯フィルムを貼り付けている

侵入口	一戸建て住宅	共同住宅
窓	58.7%	55.8%
表出入口	16.0%	34.2%
その他の出入口	17.1%	3.1%
非常口	0.1%	0.1%
その他	2.2%	1.4%
不明	5.9%	5.4%

一戸建て住宅、共同住宅とも、最も多い侵入口は窓です。

*平成23年 警察庁データより

パールや石で窓ガラスを割る「打ち破り」など手荒な手口による侵入を防ぐには、破壊に強いガラスに交換するとよいでしょう。防犯ガラス、防犯フィルムはCPマークが目印の「防犯性能の高い建物部品」をおすすめします。

窓に補助錠を取り付けている

窓ガラスのクレセント(※)に近い部分を割られても、すぐには窓が開けられないよう補助錠を取り付けましょう。施錠が可能な雨戸やシャッターも有効な防犯手段です。

※引き違い窓に付いている締め金具

簡単に外せない面格子を取り付けている

たとえ面格子が付いていても、絶対に安心ということではありません。面格子のなかには、強く引っばると外れてしまうものもあります。建物との固定状況も重要です。面格子は簡単に外されにくく、切断されにくい構造になっている「防犯性能の高い建物部品」をおすすめします。

2階へ容易に侵入させてしまうような足場はない

塀や植木、車庫・物置きの屋根、置きっぱなしの脚立などが足場に使用され、2階への侵入経路となることがあります。家の周囲を再度、点検しましょう。2階だからと安心して錠を掛けていなかった、ということのないよう十分注意することが必要です。

防犯性能の高い建物部品

- ・CPマークが目印の「防犯正確の高い建物部品」は、「防犯性能の高い建物部品の開発・普及に関する官民合同会議」で侵入までに5分以上の時間を要するなど一定の防犯性能があると評価された建物部品です。詳細は <http://www.cp-bohan.jp/> をご覧ください。
- ・「防犯性能の高い建物部品」には「CPマーク」の使用が認められています。
- ・「防犯=CrimePrivention」の頭文字「C」と「P」をシンボル化しています。

木々はこまめに伐採し堀は低くして、死角をなくすようにしている

塀や垣根は外からの視線をさえぎり、泥棒にとって格好の隠れ場所となります。木々の下枝をはらい、塀や垣根は低くして死角をなくし、玄関や勝手口の周辺は特に見通しをよくしましょう。

門灯を点けたり、人が近づくと点灯するセンサー付きライトを設置したりしている

センサー付きライトは夜間の人の動きに反応して点灯するため、不審者を威嚇する効果があります。夜間は常時門灯を点け、暗い場所や車庫、玄関などにはセンサーライトを設置しましょう。

短時間の外出でも、窓や玄関の錠をきちんと掛けている

侵入手段	一戸建て住宅	共同住宅
無締り	46.0%	43.2%
ガラス破り	38.5%	33.5%
ドア錠破り	1.8%	1.7%
合かぎ	1.4%	8.2%
その他の施錠開け	1.2%	1.6%
戸外し	0.7%	0.3%
サムターン回し	0.3%	0.9%
ピッキング	0.0%	0.3%
その他	5.5%	3.5%
不明	4.6%	6.7%

ゴミ捨てのような短時間の外出であっても、窓や玄関の錠は必ず掛けるようにしましょう。侵入窃盗の発生場所別の侵入手段においては、施錠していない場所から侵入されたケースが、一戸建て住宅の場合は46.0%、共同住宅の場合は43.2%に及びます。

*平成23年 警察庁データより

長期で留守をするときは、新聞や郵便を止めるようにしている

ポストに溜まった新聞や郵便物は、留守宅であることを泥棒に教えているようなもの。旅行や帰省などで長期間、留守にする場合は、新聞配達所に連絡して配達を止め、郵便局へ不在届を出しましょう。

エレベーターには防犯カメラが設置されている

共同住宅の場合、共有部分にも防犯対策が必要です。扉が閉まると密室になってしまう危険なエレベーターをはじめ、出入口や階段へ、防犯カメラを設置しましょう。ただ、カメラがあるから安全ということではなく、見通しをよくして十分な照度を確保するなど、日ごろの心掛けが大切です。

屋上の出入りは制限されている

共同住宅のように屋上がある建物の場合、樋(とい)やロープを伝って最上階のベランダへ侵入する泥棒もいます。階が上がるにつれ人目につきにくくなりますから、屋上の出入りは制限する必要があります。



交通安全のポイント

強風時はハンドルをとられたり、飛来物に視界を遮られることがあります。濃霧時は視界が悪くなり、周囲の状況がほとんど見えない状態になります。そこで今回は、強風時と濃霧時における安全走行のポイントをまとめてみました。

強風時の安全運転

スピードを落としハンドルをしっかり握る

強風時は、ハンドルをとられ車が流されることがあります。特にワンボックスカーなどの車体の高い車は風の影響を受けやすいので、強風時にはスピードを落とすとともに、ハンドルをしっかり握りましょう。また、風に車が流されたとき、あわててハンドルを切り返したり急ブレーキを踏んで姿勢を立て直そうとすると、かえって危険な事態を招きかねません。多少車が流されても急ハンドルや急ブレーキは避け、落ち着いた運転操作を心がけましょう。また、強風時は、紙屑などの飛来物がドライバーの視界を遮ることがあります。そのようなときもあわてずに、前方の状況にしっかり注意して走行しましょう。

こんな場所が強風に見舞われやすい

強風に見舞われやすいのは、橋の上やトンネルの出入口、海岸沿いや切り通しなどです。このような場所を走行するときは、特に風の状況に注意して慎重に走行しましょう。



濃霧時の安全運転

早めに灯火を点灯する

濃霧が発生して視界が悪くなったときは、スピードを落とすとともに、ヘッドライトまたはフォグランプを早めに点灯します。これは自車の視界を確保するためだけでなく、対向車や後方の車に自車の存在を知らせるためにも重要なことです。なお、ヘッドライトを上向きにすると、光が乱反射して視界が悪くなりますから、必ず下向きにしましょう。

【濃霧時の点灯義務に関する道路交通法の規定】

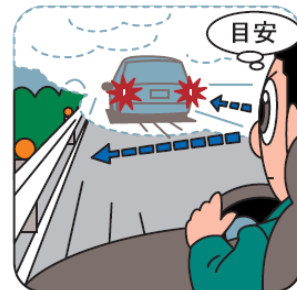
道路交通法施行令第19条において、「トンネルの中、濃霧がかかっている場所その他の場所で、視界が高速自動車国道及び自動車専用道路においては200メートル、その他の道路においては50メートル以下であるような暗い場所を通行する場合は、夜間以外の時間でも灯火をつけなければならないことが定められています。

センターラインなどを目安に走行する

濃霧で前方の視界が悪いときは、センターラインやガードレール、前車の尾灯を目安にスピードを落として走行しますが、急にスピードを落とすと後続車に追突されるおそれがありますから、徐々に落とすようにしましょう。また、危険を防止するために必要な場合は、クラクションを使用して対向車等に自車の接近を知らせるようにしましょう。

極端に視界が悪いときは安全な場所に避難する

濃霧で極端に視界が悪く、前方がほとんど見えない状態になったときは、最寄りの退避所など安全な場所（高速道路の場合は、サービスエリアやパーキングエリア）に車を止めて、霧が晴れるのを待つようにしましょう。霧の発生は大半は一時的なもので、しばらく様子を見ていれば晴れてくるケースが多いので、決して無理はしないようにしましょう。



【取扱代理店】

【住所】

TEL :

FAX :